

やくしまに暮らして

ネイチャーガイド 大野 睦

第四章 屋久島の祭り

離島の暮らしは日々の営みの中で自然の恩恵を受けて生きているという実感が必然的に強くなる。屋久島は古くから山岳信仰の地である。その屋久島で見られる祭りのほんの一部ではあるが紹介したい。

■山の神祭り



旧暦の正・5・9月16日。

山に感謝し、山に入らない日。

かつての屋久島は詣所と呼ばれる場所から先の山には女性や子供が入ることが許されなかった。それでも年に3回は男性も山に入ることをせず麓で日頃の感謝を捧げて過ごす日、それが山の神祭りである。また、この日は山姫が水を汲みに下りてくるとされ、山姫に出会ってしまうと血を吸われるという伝説もある。

■海祭り



海4月中旬、山が新緑に包まれ森が柔らかな彩りを見せる頃、いよいよ屋久島はトップシーズンを迎える。そのシーズンを迎える前に屋久島じゅうの海岸や港などを清掃するイベント。清掃するポイントが数多くあるため自分の地域の海岸などに集まる、朝の涼しいうちの2時間。



遠く海の向こうからのゴミに様々な思いを巡らせる時間でもある。
午後には子供たちのためのカヌー体験などのイベントが行われるが、何よりも
清掃のあとに見られる子供たちの誇らしげな顔がきっと故郷を大切に思う気持ち
を必然的に育んでいるのであろう。



■ご神山祭り

屋久島最大のお祭り。いわゆる夏祭りであるが、この祭りは山岳信仰に基づく伝統文化の継承を伝えるべく続けられており、



お水取りから始まる神事の中でも住民が参加する火熾しがある。この櫓の中央には大きな丸太があり、その丸太に巻かれた大きな綱を海側と山側で引き合い、その摩擦で火を熾す。このご神火は人々の無病息災を願い火櫓を燃やし続ける。



その神事の際には屋久杉で作られた太鼓を使っ
ての奉納演奏も行われる。
なお、この祭りは30年前に生まれてい
る。町興しと伝統文化の継承など様々
な思いも込められており、水中花火
など島民にとって夏の一番の楽しみ
でもある。



■やくしま森祭り



これまでに紹介した祭りとは並べるには些か傲慢かとも思うが、是非この機会に一人でも多くの人に知ってもらいたい。

私自身が発起人として名を連ねるこのイベントは10月の満月の夜、2000本のキャンドルを使用して行う音楽祭。屋久島総合自然公園という森の中にある町立の野外ステージを使っのコンサートだが、使用する電力は30Aと一般的な住宅と変わらない容量で行い、また出演アーティストやスタッフ全員がボランティアで作り上げるイベントである。



島で唯一の屋久島高校のボランティア部や屋久島町商工会青年部を中心として島の若者たちが総出で全て手作りの作業を行う。



まずステージの音響効果を高めるために間伐や枝打ちで切られた杉の葉で壁一面を埋め尽くし、2000本のキャンドルもひとつひとつ並べられ、開会式では入場者と共にキャンドルの点火を行う。





ゴミを出さない祭り、を提唱し会場にはゴミ箱を設置せず、持ちこんだものは自分で持ち帰りいただく。チラシを配布することもせず、入場券も紙のチケットではなく手ぬぐい。小さな子供からお年寄りまでみんなが楽しめる生きた音楽を届けること、屋久島の自然に生かされ生きること感謝を捧げることを掲げた祭り。家族みんなでゴザやお弁当などを持って集まってくれるこの祭りが子供たちの誇りとなることを願っている。6年前、この祭りを企画した際に相談した方の言葉が今でも私の支えとなっている。

「どれだけの伝統も、必ず始めた人がいる。花火のようにパッと上がって終わりじゃなく続いてゆく祭りをやりなさい。」と。

やくしま森祭りは昨年5回目の開催。まだまだまだ生まれたてのお祭りではあるが、受け継がれ語り継がれていくものになることを信じ、また今年も開催出来ることを祈る。



大野 睦 BLOG やくしまに暮らして

<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>